

2014/11/14

電書ラボ 御中

## 『電書ラボチェッカー』試用レポート

株式会社モバイルブック・ジャーピー PF 運営部

弊社のビューア評価用のテスト EPUB コンテンツを用いて、電書ラボチェッカーを試用してみましたのでご報告いたします。

なお評価用のコンテンツは、電書協 EPUB3 制作ガイドに準拠して作成したものです (ver1.1.1 のテンプレートを元に若干のカスタマイズを施したもの)。

### ■使用感について

使用方法はシンプルで、チェック時間も妥当な長さでした。

複数のコンテンツを一度にチェックできると現場の作業効率が上がると思われます。

### ■無料ウェブサービスであることに対するセキュリティ上の懸念

スタンドアロンで使用できるアプリケーションではなく、ウェブブラウザを介して使用する無料のウェブサービスであることには、セキュリティ上の懸念があると存じます。

#### 1、コンテンツそのものを社外のサーバにアップロードする点

当社も含めて、クライアントの委託を受けて商用制作を行っている会社では使用が難しいと存じます。自社コンテンツを自社制作している出版社でも、セキュリティポリシーによっては使用が制限されるのではないのでしょうか。

#### 2、チェック結果が保存され利用される点

チェック項目には OPF 内の書誌情報がまるごと含まれています。発売前の商品について、どこが制作しているかという情報まで含めて外部の第三者に保存されてしまうのは、やはり商用制作上は使用を躊躇させる大きな障壁になると思われます。

### ■チェック結果について

事前に「電書ラボチェッカー解説」を読んで想定したのとほぼ同じチェック結果が出ました。チェック結果のレポートも、ハンドコーディングで制作できるリテラシーやスキルを持つ者が見る限りは、大変分かりやすくまとめられていると感じました。

ただ、そうしたリテラシーを持たない人には、そもそも理解ができないのではないかと考えられます。特に、疑わしい箇所を抽出し、可否の判断を検証者が行う項目については、判断できない人が多いと思われます。具体的には、外部の制作会社や何らかの市販もしくはフリーのツールに品質管理まで含めて完全に依存している出版社の人などです。そうし

た人々への啓蒙効果も本チェッカーには期待したいところです。そこで、以下のような機能改善は可能でしょうか。

●目視検証の要素を盛り込む

リーディングシステムで実際にどのような表示になるのかを目の当たりにできれば、可否判断が容易になります。チェック結果レポートの「解説」「表示する」をクリックしたときに、主要なリーディングシステム（**Readium** などでも良いと思います）での表示状態のシミュレーション画面が見えると分かりやすいと存じます。

■チェック項目のセレクトについて

**epubcheck** がチェックしてくれるシンタックスエラー以上の、制作ミスの可能性まで含めてチェックしてくれるというのは画期的だと思います。縦中横タグの打ち忘れや、PNG 画像の透過/非透過、底本ページ参照記述の有無、文字の向きなど、いかにも制作者が見落としそうな項目がチェック項目としてセレクトされており、有用と思います。

弊社のような取次業者が出版社制作の完パケコンテンツを検証するにあたっては、下記のような観点で項目を充実させていただけると使いやすくなると存じます。

<電書協ガイド非推奨の要素に関するチェック>

例：SVG の使用

縦組時ページ中央配置レイアウト

画像の周囲へのテキストの回り込みレイアウト

テーブルレイアウト

**256KB 以上の容量の XHTML**

**XHTML 分割ではなくタグによる改ページ**

など

以上です。